



よろこび



2018.11.20 第119号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信



三矢 亮 牧師

支えられる喜び

西中国・呉山手教会牧師 三矢 亮

「いと高きところには栄光、神にあり、地には平和、御心に適う人にあり」

(ルカ2・14)

クリスマスの喜びは、天の喜びが地に起こったことです。救い主が私たちのところに誕生したからです。それは民全体に与えられる大きな喜びです。暗闇に輝く救い主の誕生を天使が伝えました。羊飼いはその告知を聞いて出かけ、救い主を見出しました。暗闇

は地に這いつくばって生きている人の困難、罪の苦しみを表していますが、神は絶対に届かないと思われた人の心の闇を光で照らしたのです。本物の救いのしるしを受けた羊飼いに平和が訪れました。

人は困難や罪の苦しみをもち、つとめ、回復を願いながら、真実の愛に飢え渴いています。それが得られないと、諦めに支配されるか、混乱や破壊へと変化します。しかし救いの喜びを手にしたなら、羊飼いがそうしたように、世の人のびとへ告げ、喜びをともします。困難と罪の中に孤立している人が平和を得て、神への賛美と感謝に溢れるようになります。

今年の7月、私が住む広島県呉市は豪雨災害に見舞われ

ました。市内各地で土砂崩れが発生し、鉄道、道路が寸断されて住民は孤立しました。多くの建物に土砂の流入があり、教会員や幼稚園、施設関係者も被災し、痛みを負いました。呉市のキリスト教会は、普段から市民クリスマスなど超党派で集会を行い交わりが深く、インマヌエル呉キリスト教会が呼びかけ、直ちにキリスト教会・広島災害対策室・呉ボランティアセンターを教会に立ち上げました。市内の教会が集まり働きを中心を担いました。日本基督教団をはじめ、米国や韓国からも教派を超え、ボランティアのため教師、信徒が延べ1138名参加しました。被災対応件数は140件に上りました。

ボランティアセンターでは、朝8時に集合し、呉平安教会の小林克哉牧師と一緒に、讃美歌533番「どんなときでも」を歌い、祈りをもって現場に向いていきました。教会員の家や教会建物の被災、

さらに地域住民の被災している場所の復旧に当たりました。毎日午後6時にはセンターでミーティングを行い、毎回メッセージや報告、祈りで一日の活動を終了しました。センターの活動は、7月17日から8月10日までは日曜を除いて毎日、8月21日から9月28日までは週2日行いました。

私は、天応地区で土砂や瓦礫出し、土嚢袋詰め、ダンプカーで土砂捨ての作業を行いました。石巻市から来た宣教師チーム4人と作業を一緒にしました。この方がたは東日本大震災のボランティアをしたことを契機として、石巻で宣教し始めた方たちです。当初私たちは、土砂の量に圧倒されました。天応地区に大量の土砂が流入し、完全に埋もれている家もありました。行方不明者が発見されていない所での作業でした。

そのような中で、Aさんの家から泥出しを依頼され、作業を始めました。スコップで

掘り出す固い土の重さと30度を超える気温で午後には疲労で体を十分に使えない状態でした。宣教師チームも「今までで一番きつい現場だ」と話すほどでした。午後3時に現地の作業が終了すると、その家の方がたと教会ボランティア10数人が手を繋いで大きな輪になり、讃美歌を歌って祈りました。中心にはいつもイエス様がおられました。Aさんは「キリスト教会の方がたは熱心で長時間にわたって作業をする」と大層喜び、感謝していました。ある時、作業終了後に祈りだけで終わろうとしたところ「今日は讃美歌を歌わないのですか」と言われるほど教会ボランティアを受け入れてくださいました。Aさんは被災した時の様子を具体的に話し、親しく交わってくださいました。泥の中で途方に暮れ涙した方の心情を伺い、不安な心に寄り添い、信頼関係を築くことができました。

地域的にも精神的にも孤立している被災地や教会を訪ねてくださった教団の石橋秀雄議長、秋山徹総幹事、道家紀一総務幹事、加藤誠世界宣教幹事、西中国教団の小畑太作総会議長と一緒に泥かきをした教団地区の教師たち、安否を気遣ってくれた諸教会の教師、祈っていただいた全国の方がた、本当にありがとうございました。孤立しても、決まらずに一人じゃない、支えられている」と実感しました。

「地には平和、御心に適う人

にあれ」が実現する神のご計画のうちに、携わった者が生かされたことを感謝します。徹底的に悲惨な現実には遭った時、神は教派を超え、私たちの心をひとつにして働かせました。支える人と支えられる人の間で神の救いの喜びを受けることができました。そのように天の喜びが一人ひとりに届き、地に溢れることを願います。救いは決して人間の側からはなされません。日々、神のご慈愛によるお支えを感謝しています。(みつや あきら)

「隠退教師を支える運動・100円献金」 全教区推進協議会に出席して

東京教区推進委員 池田 浩二

2018年10月4～5日、教団会議室において全教区推進協議会が開催されました。

開会礼拝では、秋山徹教団総幹事が、エフエソの信徒への手紙6・1～4により「約

束を伴う最初の掟」と題して説教をされました。「父と母を敬いなさい」。老年になった父母を大切にして敬いなさい。「そうすれば、あなたは幸福になり、地上で長く生きること

「隠退教師を支える運動」も、この約束につながる働きだと私たちの運動を祝し、奨励してくださいました。

次いで、森啓一推進委員長は献金活動に参加されている諸教会、伝道所ならびにそれぞれの献金担当の方がたに心からのお礼を述べられた。同時にこの献金活動も日本全体の少子高齢化と地方の過疎化の影響で、教団教勢の伸び悩みの影響を受け、2014年度から2017年度にかけて4年連続して献金が前年度より減少していることを率直に報告し、いささか危機感を覚えていた点を述べられました。

教団年金制度は、既に隠退された教師の生活ばかりでなく、現役教師の老後をも数十年のスパンで見通す超長期事業であり、今後「隠退教師を支える運動」推進委員会規程の目的に立って、この運動を決して崩壊させてはならない。40年前の教団総会決議の

熱意を今一度思い起こし、日本基督教団に属する全教会、伝道所の教職、信徒の皆さまが、年金局の「謝恩日献金」とならんで教団年金を支える両輪として、この運動を理解し、参加してくださいさるようお願いしたいと、熱い決意を述べられました。

続いて鈴木秀信事務局長から、新任の幹事、推進員の紹介、2017年度決算事業報告、2018年目標額、および第41総会期全教区推進員の継続について報告がありました。

その後全体協議会（Ⅰ）があり、井上昌保推進委員の司会により、全国の教区、支区の推進委員、推進員のそれぞれの活動報告と課題について、具体的な推進運動の報告がありました。

夕食の交わりの時は、皆さまの信仰告白を伺うような時となり、思いがけず大変教えられる機会を与えられ、感謝の内に第1日目のプログラムを終了しました。

第2日目は、藪田安晴年金局理事長から教団年金制度について改めて説明があり、教団年金についての理解を深めることができました。次いで全体協議会（Ⅱ）として、1998年4月の常任委員会で採択された、「隠退教師を支える運動・私たちのビジョン」をふまえて、前日報告された各教区、支区の状況から、新たな活動に向けての決意について協議を続けました。

50%台の教会参加率を上昇させる努力とともに ①運動参加に無関心な牧師には単独ではなく複数で働きかける ②近隣教会との連携と交流を密にする ③推進員としてできることは何でもやる ④推進員は協力者を作りともに活動する、という提案を、今後の活動に生かしていくこととしました。

総括として、森啓一委員長は、「昨年は分団に分かれていたが、今回は全体協議の方式で実施し、全ての報告、協議

に全員が参加し、参加者全員が共通認識をもつことができただのではないだろうか。分団協議と全体協議には、厳密にはそれぞれ一長一短があると思われるが、今日のような状況では、全体協議会方式でやって良かったのではないかと感想を述べられました。

感謝とともに、今後一同の協力を要請され、祈禱をもって閉会しました。

（いけだ こうじ／
東京・霊南坂教会員）

新しく受給者となられた方

（18年9月～10月 敬称略）

隠退

牧野 信次（神奈川県・上星川（東京都）

坂井 慶（京都・朝日（彦根市）

平山 嘉廣（兵庫・芦屋岩国（西宮市）

（3名、平均年齢80・3歳）

遺族

中村 洋子（中村 民男）（東京都）

船本 恵（船本 弘毅）（狛江市）

水野 文（水野 穰）（高松市）

萩原かつ代（萩原 義春）（千葉市）

木下久美子（木下 忠司）（春日井市）

（カッコ内は、教師は最終任地と現在の居住地、遺族は故配偶者名と居住地）

業務室より

— 年金を受けている方へ — 年金送付のお知らせ

12月の定例送金のご案内をします。

送金内容

①謝恩金受給者

2018年度第4期分給付額
(2019年1, 2, 3月分)

②退職年金受給者

2018年度第3期分給付額
(2018年10, 11, 12月分)

送金日 2018年12月10日(月)

期日に、ご指定の金融機関に入金されていない場合は、ご連絡ください。

次回送金 2019年4月10日(水)

住所・年金振込先の変更は、できる限り早急に書状、FAX、メールで年金局にお知らせください。

☆去る10月10日の定例給付日に謝恩金(遺族扶助料)と退職年金合計1億1196万円を735名の受給者にお送りしました。

☆「教団新報・年金特集」(No.67)を同封します。年金局ならびに「隠退教師を支える運動」2017年度の決算報告が掲載されています。ご覧ください。

☆2019年1月下旬に確定申告のための「2018年教団年金計算書」をお送りします。大切に保管し、申告の際にご使用ください。遺族年金受給者には送付しません。但し、必要な方は年金局までご連絡ください。

☆第41回日本基督教団総会は、「伝道する教団の建設—伝道の命と力の回復」

を主題に、10月23日～25日(火～木)、メトロポリタンホテル(東京池袋)に於いて開催されました。総議員400名中376名の出席者で総会を開始しました。複数回の本投票の結果、総会議長に石橋秀雄牧師(再選・越谷教会)、副議長に久世そらち牧師(新・札幌北部教会)が選出されました。また雲然俊美牧師(再選・秋田桜教会)が議長と副議長により書記に推薦され、承認されました。石橋議長は「過ぎた4期8年間本当に重い責任を担わせていただいた。批判も多く受けたが、その中で祈られていることを実感した。新たな任を主の十字架として負っていきたい。また伝道の命と力の回復をもって一致して伝道推進に取り組んでいきたい。お祈りとご協力をお願いしたい」と挨拶されました。

☆お詫びと訂正：同封の教団新報・年金特集3頁、最上段 福田栄先生の最終任地(あざみ野支店)は(神奈川・羽沢伝道所)の間違いでした。訂正し、お詫び申し上げます。

☆一昨年の熊本地震の後、今年も大阪北部地震、西日本豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震等大災害が続き、その上に記録的な寒波、また記録的な熱波に見舞われ、大変な1年でした。被災された方、体調を崩された方、今なお不安をお持ちの方がたに主の慈しみがありませんようにお祈りします。

12月2日からアドベントに入ります。主のご降誕を迎える備えをしたいものです。

(櫻井淳子)

日本キリスト教団 年金局 「隠退教師を支える運動」推進委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

年金局 Tel: 03(3202)2080

Fax: 03(3202)2081

mail: nenkin@clock.ocn.ne.jp

支える運動 Tel: 03(3202)2081(Fax 兼用)

mail: sasae@flute.ocn.ne.jp